

# 八王子における「多世代型学習支援ボランティア制度」の構築 学園都市・八王子を「教育のための地域社会」モデル都市へ

## The construction of volunteering system for multi generation learning support in hachioji

中賢ゼミ人権班

山田大輔<sup>1)</sup>, 井上清美<sup>1)</sup>, チャトウ<sup>1)</sup>, 岩元広平<sup>1)</sup>  
指導教員 中山賢司<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup>創価大学 法学部 法律学科 中山賢司ゼミ

キーワード：大学生ボランティア、小学生、多世代型学習支援、教育のための地域社会

### 1. 研究目的

私たち人権班は、これまで、八王子市での学習支援ボランティアに参加したり、地域ボランティアの方にお話を聞いたりして、八王子市の一人親世帯、貧困世帯の子供たちに対する学習支援の取り組みについて研究してきた。その中で、私たちは、

(1) 八王子市では、小学生を対象とした学習支援ボランティアが少ないこと、(2) 小学生への学習支援ボランティアでは大学生の参加が少ない、との2点に注目した。私たちは、大学生の学習支援ボランティア参加を促進することができれば、小学生への学習支援ボランティアも増やすことができるのではないかと考えた。私たちは(2)の大学生ボランティアが少ないことについて、大学生の間でボランティアの認知度が低いことが原因であると考えている。そこで私たちは、大学のホームページ等を活用し、大学、ボランティア、小学校をつなげ、八王子市における小学生への新たな「多世代型学習支援ボランティア制度」構築することができないかと考え、この研究では、そのための考察と提案を目的とする。

### 2. 現状確認

八王子市の「子どもの生活実態調査報告書」(平成30年度)によると、大学生のボランティアが無料で勉強を見てくれる場所を使ってみたいか聞いたところ、「使ってみたい」、「興味がある」と答えた小学5年生は、約44.5%となっており、需要は

確認できる。しかし、八王子市には小学生を対象とした学習支援ボランティアが少なく、中学生以上を対象とした学習支援が中心となっている。また同調査で、授業の理解度について尋ねたところ、小学5年生全体では、約80%の児童は、「いつもわかる」、「大体わかる」と答えていたが、残りの約18.5%の児童は、「半分くらいわかる」、「わからないことが多い」、「まったくわからない」となっている。(図1、下) これらのことから、小学生の段階ですでに学習支援を必要としている児童が約2割もいることが確認できる。授業の理解度は、困窮層ほど低くなる傾向にある。さらに通塾の状況を尋ねたところ、「経済的にできない」と答えた人は、一般層では、約8.8%に留まったのに対し、困窮層では、約74.6%と高くなっており、無料で参加できる学習支援ボランティアが、いま求められていることがわかる。

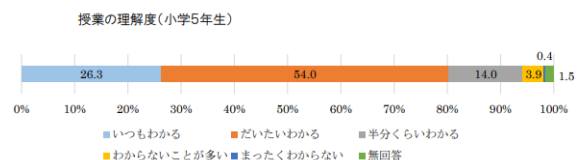


図1：授業の理解度（子どもの生活実態調査報告書より引用）

### 3. 研究方法

まず学習支援ボランティアを行っている小学校付近にある大学のホームページ(図2、下)などを

活用し、大学生ボランティア参加促進が可能かどうかを検証する。つぎに大学生とボランティア、学校をどのようにつなげていくかについて、アンケートや、取材を基にして、検討し、実際のボランティアの中で、検証を試みたい。



図 2: 創価大学の学生用サイトでのボランティア募集の例

#### 4. 今後の予定

学校関係者と連携をとり、大学生ボランティアの募集、ボランティアでの検証を経て、大学生ボランティア活用のための課題の分析を行う。そこから、八王子市における小学生を対象とした「多世代型学習支援ボランティア制度」のための考察、提案を行う。

#### 参考文献

子どもの生活実態調査報告書・結果版（平成 30 年 6 月）

[https://www.city.hachioji.tokyo.jp/tantoumadoguchi/002/002/p021945\\_d/fil/reportoutcome.pdf](https://www.city.hachioji.tokyo.jp/tantoumadoguchi/002/002/p021945_d/fil/reportoutcome.pdf)